

# 受注時融資を全国展開

## Tranzax 電子記録債権担保に 商工中金の店舗網活用

受注を電子記録債権化し金  
融機関に譲渡することで、  
企業が運転資金などを得  
る。運転資金が最も必要な  
仕掛かり前の資金調達が容  
易となり、建設やシステム  
開発など、請負型の業界で  
の活用が期待されている。  
同ファイナンスにより、公  
共工事の前払い金のような  
資金調達が民間工事でも行  
えるようになる。

Tranzaxは、PO  
ファイナンスを導入する金  
融機関として5月に城南信  
用金庫（東京都品川区、渡  
辺泰志理事長）と業務提携  
した。6月には西武信用金  
庫（東京都中野区、落合寛  
司理事長）、大阪シティ信  
用金庫（大阪府中央区、高  
橋知史理事長）とも業務提  
携を結んだ。商工中金との  
提携によって、これまで東  
京と大阪に限定されていた  
取り扱いが全国規模に拡大  
できる。

同社は21日、POファイ  
ナンス融資の第1号とし  
て、インバウンド（訪日外  
国人旅行者）向けのウェブ  
サイトデザインなどを手掛

けるHuber（神奈川県鎌倉市、紀陸武史代表取締役最高経営責任者へCEO）が山陰インバウンド機構（鳥取県米子市、田川博己会長）から受注した業務案件を電子記録債権化し、商工中金を通じた融資を行えるようにしたと発表。融資には信用保証協会の流動資産担保融資保証制度（ABL保証）を活用する。

Huberは、山陰インバウンド機構から代金を受け取る前に外注費、材料費などの運転資金が調達できるとしている。

フィンテックベンチャーのTranzax（東京都港区、小倉隆志社長）は、工事や業務を受注した時点で発生させた電子記録債権を担保に融資を行う「POファイナンス」サービスを全国展開する。業務提携した商工中金の店舗ネットワークを生かした融資を通じて、地方創生や中小ベンチャー企業の成長を支援する。

POファイナンスは、売掛債権として確定する前の